



平成 23 年 2 月 9 日 水曜日

# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
(奈良県保健環境研究センター内)  
**Nara IDSC**



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 奈良県インフルエンザ発生状況の集計結果（第 1 版） **NEW**
- 奈良県インフルエンザウイルス検出状況 **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



(調査週) 平成 23 年 第 4 週 1 月 24 日 (月) ~ 1 月 30 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	20.64	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	6.40	→	→	→~↓	→~↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.23	↑	↑	→~↑	↑
4	水痘	1.17	→~↓	→	→	→~↓
5	伝染性紅斑	0.74	→~↑	→	↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は 773 例で、前週報告の 569 例から増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③伝染性紅斑、④水痘=A 群溶連菌咽頭炎の順。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（19 例）は、ほぼ倍増。インフルエンザの報告数（576 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（112 例）も、増加。水痘の報告数（19 例）は、やや増加。伝染性紅斑の報告数（21 例）は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；241 例、郡山 HC 管内；335 例だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。奈良市 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 1 例報告された。

(村井 記)

**県北部外来状況**：外来患者数はインフルエンザの流行で増加しているが、少子化のためか大混雑はしていない。インフルエンザは 1 月 17 日より大流行になり、当院では毎日平均 7-8 人の感染がみられる。大部分が迅速検査で A 型陽性であるが、まれに B 型陽性もある。咳と熱が主な症状だが、軽症に経過する方がほとんどである。感染性胃腸炎はインフルエンザの流行と反比例して減少している。他の疾患では伝染性紅斑の成人例が時にあり、激しい関節痛を訴えられる。

(矢追 記)

**県中部地区概況** 報告数は、484 例から 604 例と増加した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、A 群溶連菌咽頭炎、RS ウイルス感染症の順であった。インフルエンザは、360 例から 461 例と急増し、中和地区は、定点報告数が 20.95 となった（桜井保健所管内は 17.73、葛城保健所管内は 24.18）。感染性胃腸炎は 91 例と減少傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例の報告が葛城保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

**県中部外来状況**：外来数はインフルエンザの流行を受けて増加したがインフルエンザ一色という程度ではない。発熱患者の多くはインフルエンザで、すべて A 型。B 型はみられていない。当院では幼稚園児が多く学童・成人例は少ない。タミフルは効果あり、短期間で解熱する例が多い。家族内感染も必発でない。予防接種 2 回済みでも罹患する例が多い印象。他に感染性胃腸炎もあるが減少傾向、症状も軽症である。今冬ロタウイルスの流行はなかった。水痘も減少。Hib、肺炎球菌ワクチンが公費負担とともに急増、空間的分離を徹底中。（岡本 記）

**県南部地区概況** 報告数（第 3 週→第 4 週）は 143 例→144 例と推移。報告のあった疾患は①インフルエンザ（92 例→98 例）、②感染性胃腸炎（28 例→21 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（19 例→14 例）、④水痘（3 例→5 例）、⑤突発性発疹（1 例→2 例）、⑥RS ウイルス感染症（0 例→1 例）、⑦伝染性紅斑（0 例→1 例）、⑧流行性耳下腺炎（0 例→1 例）、⑨マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0 例→1 例）。なお、マイコプラズマ肺炎は年齢区分[10-14 歳]の症例であった。（柳生 記）

**県南部外来状況**：外来数は増加したが急増というほどではなかった。インフルエンザが週毎に倍数的に増加した。昨年末から散発的に見られるようになった A 型インフルエンザは PCR の結果全て新型であったが、第 2 週終わり頃から近隣の K 校区の小学校と保育所で B 型インフルエンザの局所的流行が続き、低学年から高学年へと学級閉鎖が相次いだ。少し遅れて市内多数の校区でもインフルエンザの流行が始まり、学級閉鎖や園閉鎖などが増加してきたもよう。当初は A 型ばかりであったが、K 校区に隣接する U 小学校および両者の集まる H 中学校では A 型に B 型が混在して見られるようになった。A 型陽性の中には昨シーズンに新型に罹患（PCR にて確認）したのも数例はあった。A 香港型が疑われ、一部 PCR 検査を依頼している。また校区によっては A 群溶連菌咽頭炎も引き続き流行している模様。感染性胃腸炎は減少。RS ウイルス感染症もまた少し多くなった感。アデノウイルス感染症も見られる。（山本 記）

# 非流行季のインフルエンザ発生状況の集計結果(第1版)

平成 22 年度奈良県感染症発生動向調査事業  
平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

県医療政策部保健予防課は新型インフルエンザウイルスの早期探知を目的として、天理大学学生寮における新型インフルエンザウイルスの集団感染事例以後、医師会の協力のもと医療機関でインフルエンザ（迅速キット：A 型陽性）と診断された患者の全数把握調査を行いました。当センターでは平成 22 年 12 月 25 日までに 327 検体について詳細な遺伝子検査を行い、病原体定点医療機関からの検体を合わせて、A/H1N1pdm(新型) 198 件、A/H3N2(香港型) 109 件の解析を行いました。

10 月 15 日以降、発生状況を週報で報告してきましたが、平成 22 年 12 月 25 日をもって全数把握調査を終了したことに伴い、全体の集計を試みましたのでお知らせします。

## 1. 採取週における発生数と亜型

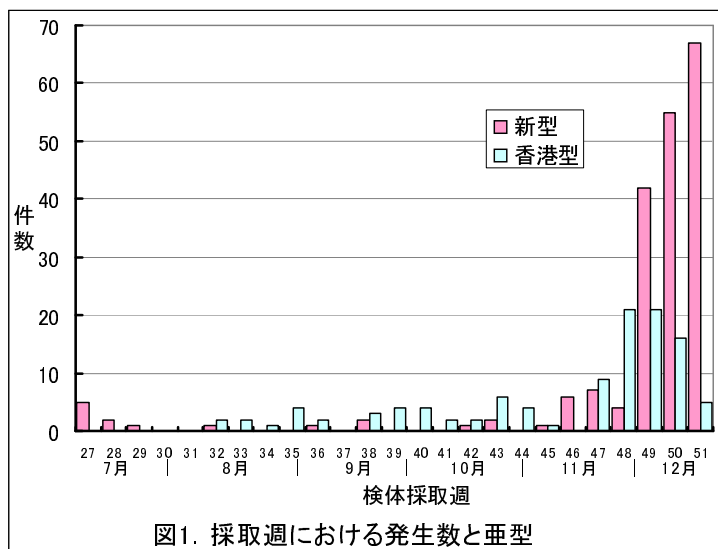


図 1 に示したように、7 月に新型インフルエンザが見られた後、10 月まで香港型が継続して毎週数例ずつ検出されました。季節性インフルエンザは香港型のみでソ連型は検出されませんでした。そのため、今シーズンは香港型が主流になるかと思われましたが 11 月以降は新型も併行して検出され、12 月に入ると新型が香港型の倍近く検出されるようになり、中旬以降は新型が大部分を占めるようになりました。香港型は 12 月初旬にピークを形成していたようです。

## 2. 年齢別発生状況

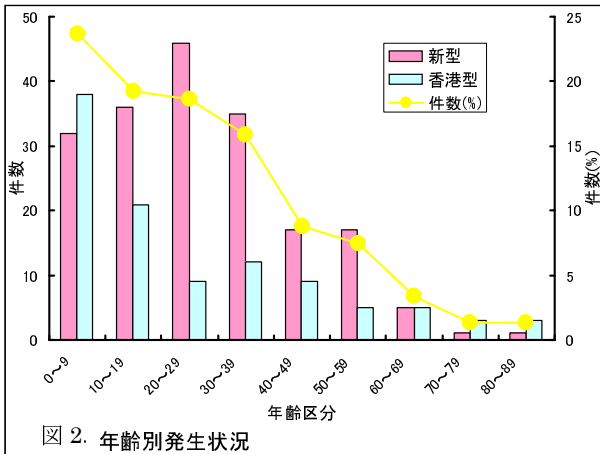


図2. 年齢別発生状況

患者数の年齢別構成は、ウイルス亜型に関わらず0才～9才までが最も多く、23.6%を占めました。しかし新型患者数については、昨年度最も多かった0才～9才(45.1%)や10才～19才(37.3%)だけではなく、20才～29才の年齢層にまで広がりが確認され、年齢別発生状況は明らかに異なっていることが判明しました。このことから、社会的に活動範囲の広い年齢層が、新型インフルエンザに罹患していたことがうかがえます。

## 3. 奈良市および大和高田市における年齢別発生状況

奈良県の鉄道はJRと近畿日本鉄道で、盆地内にほぼ限定されます。図3の赤丸は奈良市、青丸は大和高田市の鉄道網です。奈良市には京都および大阪への乗り換え拠点駅があり、大和高田市には大阪へのJRと近畿日本鉄道の複数路線があります。

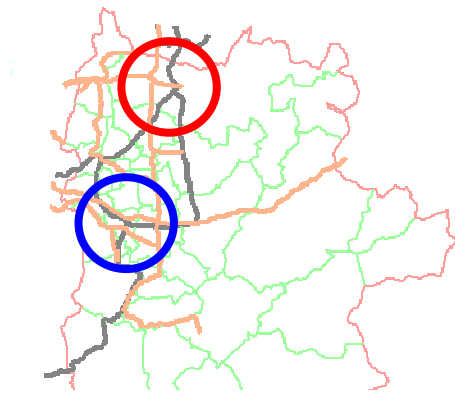


図3. 北和および中和の鉄道網  
 —— : JR、—— : 近畿日本

図4は鉄道網の拠点駅のある奈良市と大和高田市の年齢別発生状況を示しました。奈良市では、各年齢層において新型インフルエンザが圧倒的優位を占めています。10才～29才までは、新型のみ検出されました。一方、大和高田市では香港型が主流で、0才～19才までで全体の76.3%を占めました。特に幼児および児童の患者が多かったことについては、大都市圏で罹患した患者が家庭内または学校内に伝搬させ、さらに学校や幼稚園、保育所等に広めた可能性が考えられます。このように、地域的発生状況を地理的情報と併せて解析すると、感染伝播について新たな視点を得ることができます。

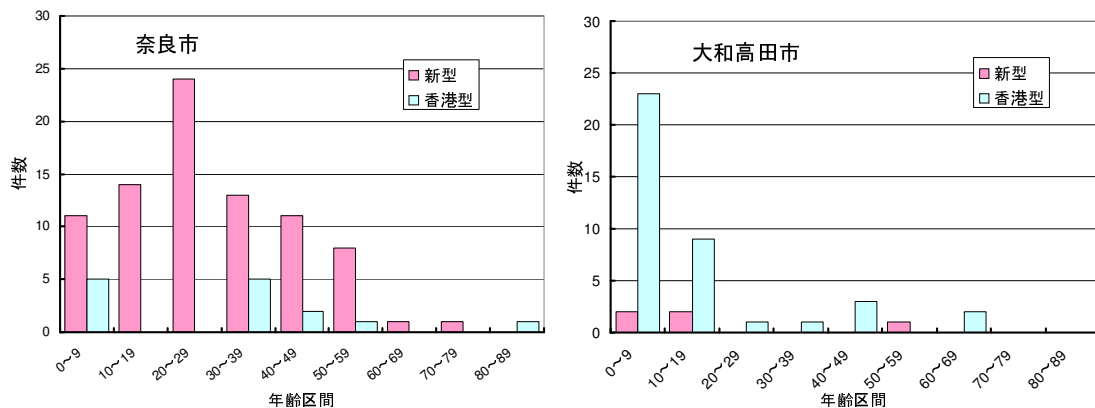


図4. 奈良市および大和高田市の年齢別発生状況

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

# 奈良県インフルエンザ検出状況

平成22年度奈良県感染症発生動向調査事業  
平成22年度新型インフルエンザ対策事業

平成22年度新型インフルエンザ対策事業  
表. インフルエンザウイルス検出状況  
(採取日別、上段:新型、下段:季節性)

採取週	第1週 まで	第2週 1/10~1/16	第3週 1/17~1/23	第4週 1/24~1/30	総計	
北和	奈良市	88 14	5	1		94 14
	大和郡山市	12 4		1		13 4
	天理市	12 2				12 2
	生駒市	14 7				14 7
	山添村			1		1
	平群町	1				1
	三郷町	3	1			4
	斑鳩町	1 2				1 2
	安堵町	1				1
	橿原市	20 8				20 8
	桜井市	8 3				8 3
	宇陀市	1				1
	中和	川西町	1			
三宅町		1				1
高取町		1				1
大和高田市		5 39		1		6 39
御所市		4 5	1	1		6 5
香芝市		8 6				8 6
葛城市		4				4
上牧町		3 1				3 1
王寺町		1				1
広陵町		5 1				5 1
河合町		1 7				1 7
南和	五條市	2	3			5
	十津川村		4			4
	大淀町		1			1
	下市町	2 2				2 2
	天川村			2		2
他	6 5				6 5	
合計	202 109	15	7		224 109	

(平成23年1月28日現在)

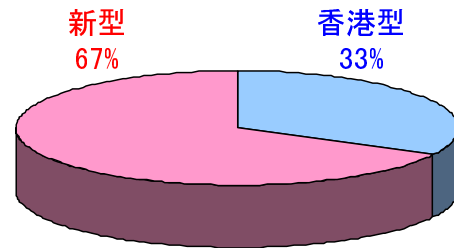


図. 平成22年度インフルエンザウイルスの亜型比率

本格的な流行季に入り、新型インフルエンザの圧倒的優位が顕著となりました。今季のワクチン株との隔たりをみますと、現在のところ大きな隔たりはなく、ワクチンの効果はあると考えられます。ただし、ワクチンは感染を完全に予防することはできません。手洗い・うがいの励行、十分な睡眠の確保等の予防対策は継続してください。

## ☆薬剤耐性検索 (検出数/検索数)

新型ウイルス：オセルタミビル耐性 (1/152)

香港型ウイルス：アマンタジン耐性 (33/33)

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

# 奈良県ノロウイルス検出状況

平成22年度感染症発生動向調査事業  
平成22年度食品の検査による安全確認事業

- ☆ 集団感染症（検出事例数）
- G I 4月：小学校（1）  
11月：小学校（1），幼稚園（1）
  - G II 5月：小学校（1）  
6月：特別養護老人施設（1）  
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）  
12月：小学校（1），幼稚園（1），  
保育園（1），他（5）  
1月：特別養護老人施設（1）
- ☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）
- G II 5月：京都府関連（2）  
7月：大阪市関連（2）  
11月：他（1）  
12月：老人福祉施設（1），他（1）  
1月：大阪市関連（1），他（1）

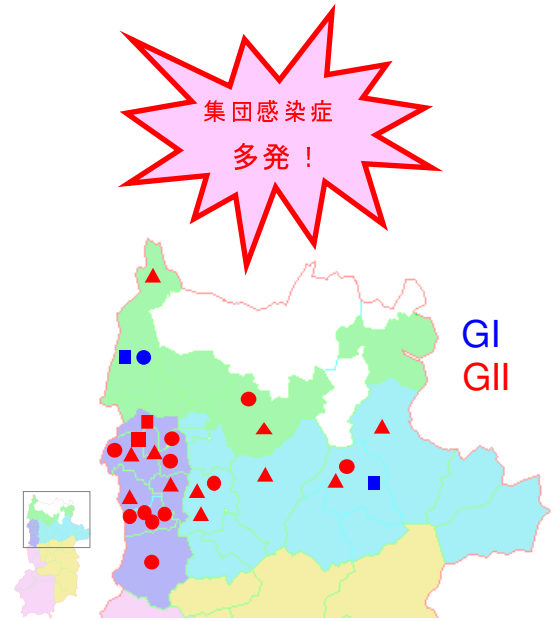


図. ノロウイルス集団発生状況  
(食中毒事例を含む)  
○: 保育所・幼稚園、□: 小学校、△: 老人保健施設、他

今シーズンのノロウイルスによる感染性胃腸炎は、12月をピークとして減少傾向にあります。なお、食中毒・集団感染症事例が散見されていますので油断は禁物です。手洗いや加熱調理の徹底などの予防対策を継続しましょう。

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)